

令和7年度 学校評価

<p>本年度の 重点目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション手段を適切に選択・活用し、円滑に人と関わる力の育成を図る。 ・心身の健康に対する理解や意識を深め、たくましい心と体を育てる。 ・家庭や地域に対して積極的に働きかけを行い、ともに子供たちを育てていくという視点に立った学校づくりを推進する。 ・学ぶことに興味や関心をもてるような授業づくりを推進し、基礎的・基本的な学力や自主的に学ぼうとする力を育てる。 ・業務の見直し、会議の精選及び効率化、協働的な業務遂行など、学校全体の多忙化解消をさらに推進し、子供たちに対して効果的な教育活動を行うことができるようにする。 		
<p>担当(項目)</p>	<p>重点目標及び具体的方策</p>	<p>留意事項</p>	<p>評価結果と課題</p>
<p>総務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページやマチコミメールの内容を充実させ、必要な情報が確実に届くよう運営する。 ・関係行事の計画及び調整を行いながら、PTA活動を円滑に行う。また、PTA活動を子供たちの教育環境の充実につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブログなどで学校の教育活動の様子などを積極的に発信する。 ・保護者と協力し、業務の精選や運営の方法を見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページや学校要覧の内容を更新し、学校の教育活動の様子をブログなどで定期的に発信することができた。 ・PTAの運営方法を見直し、役員の定数変更や会費の効果的な活用方法などを検討し改善したこと、PTA活動を円滑に進めることができた。
<p>教務部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の学習状況や学びに向かう困難さを把握し、学習集団の工夫やICT機器の活用を推進することで、個別最適な学びと協働的な学びを実現する。 ・教科指導や特別支援教育の専門性を高めることで、学ぶことに興味や関心をもてるような授業づくりを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの実態や目標の変化に柔軟に対応するために、PDCAサイクルを活用して指導や支援の方法を適宜見直し、実践をする。 ・部会や日頃の情報交換の中で目指す子供像について共有し、それぞれの教職員の専門性を生かし、多角的に指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに振り返りを細かく行い、子どもの良さや成長を丁寧に捉える学習評価の工夫を進め、学びを見取りながら指導改善につなげることができた。 ・様々な理由から登校できない生徒が増加傾向にある。子供たちへの学習保障の充実に向けて、家庭と連携しながら校内での支援体制を整え、子供たちが安心して学びに向かえる環境づくりを進めていきたい。
<p>生活指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な避難訓練を実施し、子供たちや教職員が緊急時に迅速かつ安全に行動できるようにする。 ・給食を通じて、子供たちに食の大切さや食文化についての理解を深めることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の消防署や警察署と連携し、定期的に避難訓練を実施する。 ・給食や食に関することについて、栄養教諭を中心に情報を発信したり、学級や部を超えて交流したりする機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の消防署や警察署と連携した避難訓練を実施できた。訓練後の児童・生徒の振り返りシートでは防災意識の向上が見られ、教職員も緊急時対応の精度を高めることができた。 ・栄養教諭による情報発信が定期的に行われ、学級や部を超えて情報交換を行う機会が増え、食に関する理解を深めることができた。
<p>進路指導部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供一人一人の障害特性に応じて、社会参加と自立した生活を目指すための適切な進路選択と進路実現を支援する。 ・校外学習や職場体験など多様な進路の体験を通して、子供たちが卒業後の生活を具体的にイメージできるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの希望や可能性を尊重しながら、本人・保護者・関係機関と連携し、現実的で安心できる進路決定ができるように支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な進路に関する活動を通して、進路決定や進路実現を支援することができた。 ・関係機関と連携を深め、情報等を得ることはできたが、職員に対して周知できなかった。今後、定期的に情報発信をしていきたい。
<p>自立活動・ 研修部</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが自己理解を深めながら、社会自立に必要な他者と関わる力や伝え合う力を養うことができるようにする。 ・職員研修の機会を設け、子供たちへの理解を深め、それぞれの個性に合わせた指導を行うための知識や技術向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の時間における指導とともに、日頃の学習活動や学校行事等、教育活動全般を通して必要となる力を育む意識を高める。 ・子供たちの実態、教職員のニーズに応じ、研修内容を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校務として諸検査等を設定し子供が自己理解を深める機会を設けるとともに、発達段階に応じて発表活動を取り入れることで、自身の考えをまとめ相手に伝える力を高めることができた。 ・障害を有する児童生徒に対する進路指導、発音発語指導及び障害を有する子供とその保護者の心理に関する研修を実施し、職員の指導力向上を図ることができた。
<p>いじめ防止等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供一人一人が活躍できる場や機会を作り、学校が居心地の良い場所となるようにする。 ・日常から子供たちからの言動を受容的、共感的に受け止める姿勢を大切に、子供たち一人一人とのコミュニケーションを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの理解を深め、学校生活全体を通して、得意なことを生かせるようにする。 ・子供たちの小さな変化に気付けるように、意識して関わるようにする。言動の背景も考えられるように、チームで対応に心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安定な状態の子供たちの理解を深めるため、関係する教職員で情報共有したり、記録で確認したりすることができた。 ・スクールカウンセラーの助言も参考にしながら、対応について関係する教職員で検討することができた。 ・今後も、分かりやすい授業や相談しやすい環境を目指して、子供たちにとって居心地の良い学校づくりを推進していく。
<p>勤務時間の適切な 管理及び長時間労働による健康 障害防止</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善をさらに進めるとともに、業務を複数の教職員で取り組めるように配置し、業務負担を分散する。 ・定時退校日を増やすことで、自己で仕事を切り上げる仕組みを工夫できるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・孤立化しないように、複数の教職員で業務を遂行する意識を高める。 ・定時退校日を増やし、教職員のタイムマネジメントスキルを高められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教職員で業務に取り組むことが増えたため、効率的に遂行することができるようになってきた。今後は、データ整理を推進し、さらに効率的に業務が遂行できるようにしていきたい。 ・週に一日定時退校日を設定することで、時間を意識した働き方が身に付いてきている。そのため、1か月の時間外在校等時間が45時間を超える教職員は0であった。

○学校関係者評価等

<p>学校関係者評価を実施した 主な評価項目</p>	<p>○学ぶことに興味や関心をもてるような授業づくりの推進、基礎的・基本的な学力や自主的に学ぼうとする力の育成 ○心身の健康に対する理解や意識の向上、たくましい心と体の育成 ○学校全体の多忙化解消をさらに推進し、子供たちの効果的な教育活動を提供</p>
<p>自己評価結果について</p>	<p>○子どもの良さや成長を丁寧に捉える学習評価に取り組み、学びを見取りながら指導改善につなげることができた。 ○定期的な栄養教諭による情報発信を行い、食に関する理解を深めることができた。 ○登校できない児童生徒が増えつつある。家庭と連携しながら校内での支援体制を整え、子供たちが安心して学びに向かえる環境づくりを進めていく必要がある。 ○週に一日定時退校日を設定することで、時間を意識した働き方が身に付いてきた。</p>
<p>今後の改善方策について</p>	<p>○子供たちが楽しく過ごせるような学校づくりをさらに推進していく。そのために、未然防止・早期発見、早期対策に心がけていく。 ○「できた」「分かった」など、子供自身が実感できる授業づくりや、子供自身の学び方を大切にしたい安心して学べる学校づくりを推進する。 ○心身の健康を維持できるような、校内支援体制を構築していく。 ○安全対策やいじめ・不登校対策などにおいて、家庭や地域、関係機関などと連携を図りながら、包括的な支援を行っていく。 ○互い認め合える働きやすい環境を整える。</p>
<p>その他 (学校関係者評価委員から 出された主な意見、要望)</p>	<p>○授業について ・ICT機器を活用した授業づくりなど、子供たちのとって分かりやすい授業を工夫されている。 ・分かりやすい授業の工夫がされているので、子供たちが楽しそうな様子である。 ・創意工夫が見受けられ、子供たちの興味・関心を引き出す授業づくりが進んでいる。 ・基礎的基本的な学力の定着に向けた取組が強化されている。</p> <p>○教師と子供たちとの関わりについて ・教師と子供たちとの丁寧な関わりが見られ、特別支援学校の良さを感じた。 ・校内参観する機会があることで、個に応じた一人一人の対応が行われていることが分かる。 ・授業や日常生活での支援が丁寧に行われており、子供たちが自ら表現しようとする姿が増えている。</p> <p>○防災対策について ・地域で防災対策を進めているので、学校でも避難訓練の実施以外でも取り入れてほしい。安全対策として、消防署などの外部機関との連携は大切である。</p> <p>○地域との連携について ・高等部の取組「一響カフェ」、小学部のグランドゴルフ交流など、地域の方にとっても子供たちと関わる機会があって理解が深まる。 ・学校が地域の方と連携して子供を支える体制が整ってきている。</p> <p>○いじめ、不登校対応について ・近隣の学校でもいじめや不登校対応について話題になっている。特に、小学生において増えていると感じているので、引き続き取り組んでほしい。 ・心身の健康に関する教育が計画的に実施され、安心して学べる環境づくりが進んでいる。</p> <p>○その他 ・教職員の多忙化解消に向けた業務改善が進み、教育活動の質を高めるための時間確保に一定の成果が見られる。 ・アンケートについては、保護者や児童生徒がその選択肢を選んだ理由や背景を考えていくことが大切である。</p>
<p>学校関係者評価委員会の構成 及び評価時期</p>	<p>・構成：学校評議員5名 ・評価時期：令和8年2月20日に実施</p>

令和7年度 学校教育に関する 保護者 アンケート 結果

幼 4 小 16 中 10 高 7 全 37 (未回収……幼:5 小:1 中:6 高:4)

回収率 70%

A とてもそう思う B だいたいそう思う C あまりそう思わない D そう思わない E 判断できない、わからない

No.	質問	実数					割合					A	B	C	D	E			
		A	B	C	D	E	A	B	C	D	E								
①	お子様は、楽しく学校生活を送っていますか。	幼	4					100%											
		小	12	2	2			75%	13%	13%									
		中	3	6	1			30%	60%	10%									
		高	4	2	1			57%	29%	14%									
		全	23	10	4			62%	27%	11%									
②	お子様は、友達と仲良く学校生活を送っていますか。	幼	2	2				50%	50%										
		小	8	6		1	1	50%	38%		6%	6%							
		中	4	4	2			40%	40%	20%									
		高	3	3	1			43%	43%	14%									
		全	17	15	3	1	1	46%	41%	8%	3%	3%							
③	学校の教育方針や教育活動は、お子様の実態に合っていますか。	幼	3	1				75%	25%										
		小	8	7	1			50%	44%	6%									
		中	2	7	1			20%	70%	10%									
		高	1	6				10%	86%										
		全	14	21	2			38%	57%	5%									
④	学校は、お子様のコミュニケーション力を高める支援をしていますか。	幼	3	1				75%	25%										
		小	8	7	1			50%	44%	6%									
		中	1	7	1		1	6%	70%	10%	10%								
		高	4	2			1	57%	29%		14%								
		全	16	17	2		2	43%	46%	5%	5%								
⑤	学校は、お子様の学力の定着・向上のために、工夫した授業を行っていますか。	幼	3	1				75%	25%										
		小	7	8	1			44%	50%	6%									
		中	1	7		1	1	10%	70%		10%	10%							
		高	1	4			2	14%	57%			29%							
		全	12	20	1	1	3	32%	54%	3%	3%	8%							
⑥	学校は、体験活動や視覚支援、ICT機器などを活用して、お子様の学びの意欲向上に取り組んでいますか。	幼	3	1				75%	25%										
		小	8	7	1			50%	44%	6%									
		中	1	8			1	10%	80%		10%								
		高	1	5			1	14%	71%		14%								
		全	13	21	1	0	2	35%	57%	3%	5%								
⑦	学校は、自分と友達の命を大切にすることや思いやりの心を育む指導に努めていますか。	幼	1	3				25%	75%										
		小	6	10				38%	63%										
		中	1	7			2	10%	70%			20%							
		高	2	4			1	29%	57%			14%							
		全	10	24	0	0	3	27%	65%			8%							
⑧	学校は、お子様の体力向上や健康の促進に取り組んでいますか。	幼	1	3				25%	75%										
		小	5	10	1			31%	63%	6%									
		中	1	6		1	2	10%	60%		10%	20%							
		高	2	3	1		1	29%	43%	14%		14%							
		全	9	22	2	1	3	24%	59%	5%	3%	8%							
⑨	学校は、事故防止や災害に対する知識や対処法などの安全教育・安全管理に努めていますか。	幼	3	1				75%	25%										
		小	6	9			1	38%	56%		6%								
		中	2	6		1	1	20%	60%		10%	10%							
		高	1	5			1	14%	71%		14%								
		全	12	21		1	3	32%	57%		3%	8%							
⑩	学校は、学校やお子様の様子を分かりやすく伝えていますか。	幼	3	1				75%	25%										
		小	9	7				56%	44%										
		中	3	5	2			30%	50%	20%									
		高	5	1	1			71%	14%	14%									
		全	20	14	3			54%	38%	8%									
⑪	学校は、誠実にお子様や保護者様に接していますか。	幼	3	1				75%	25%										
		小	11	5				69%	31%										
		中	3	7				30%	70%										
		高	5	2				71%	29%										
		全	22	15				59%	41%										
⑫	学校は、お子様に関する悩みや相談を気軽にできる雰囲気はありますか。	幼	3	1				75%	25%										
		小	10	5	1			63%	31%	6%									
		中	3	5	1		1	30%	50%	10%	10%								
		高	4	3				57%	43%										
		全	20	14	2		1	54%	38%	5%	3%								

【考察と今後に向けて】

幼稚園部	幼稚園部は保護者の皆さんと協力して取り組んでいくことが大切だと考えています。今後もそうした姿勢を大切に、安心して学校に通ってもらえるよう努めていきます。今年度はブログによる情報発信が少なかったため、次年度は改善していきたいと思ひます。個別指導の数については、幼児一人一人の実態が異なるため、一概には言えませんが、保護者の方と相談しながら進めていきたいと思ひます。
小学部	小学部の目標でもある「基礎学力の伸長」「協力し合う態度の育成」「自立活動の充実」をもとに、子供の成長段階の踏まえて指導・支援を行っていますが、分かりやすく子供に伝わっているかの検証や保護者の方への発信方法などの課題を今後も見直していきたいと思ひます。毎日の生活を通して、子供たちの「できる」が少しずつ広がっていくことを目指して、職員同士の連携やご家庭との信頼関係を大切に、今後も子供たちの成長に寄り添っていきたくて思ひます。
中学部	部の教育活動や普段の学習状況を、ブログやお便り等でより丁寧に発信し、伝えていきたいと思ひます。懇談等で保護者の方の思いをしっかりと聞き支援をします。また、中学生という多感な時期であることを念頭に、生徒のニーズを把握して生徒に寄り添い、相談しやすい雰囲気を中心掛けて職員以外とも連携をしながら環境を整えていきたいと思ひます。
高等部	学習面では、黒板だけでなく、ICTを活用することで、より視覚に訴えた分かりやすい授業作りを行っています。またICTを活用したら、それに関する問いを投げ掛け、理解度を確認しながら進めています。ただ、Eの「分からない」の割合が比較的高いので、今後は行事や芸術分野だけでなく、教科の授業や部活動、給食の様子についてもブログでお伝えし、生徒が日々真剣に、楽しく学びに向かっている様子をお見せしていきたいと思ひます。